

平成24年度 6人制ルール取扱い

全国高体連バレーボール専門部

1 リベロに関する事項規則 19.1 リベロの指名 (DESIGNATION OF THE LIBERO)

- 19.1.1 各チームは記録用紙の選手リストの中から、守備専門の選手、リベロを2人まで指名することができる。(規則4.1.1)
- 19.1.2 すべてのリベロは、試合開始前に記録用紙の所定欄に記載されなければならない。FIVB世界・公式大会では、すべてのリベロは記録用紙の所定欄にのみ記載する。
- 19.1.3 監督により試合開始前に指名された1人のリベロが、スターティングリベロとなる。コート上のリベロはアクティंगリベロである。もう1人のリベロがいる場合は、セカンドリベロとなる。
- 19.1.4 試合中いかなるときでもコートに立てるのは、1人のリベロだけである。
- 19.1.5 リベロは、リベロの役割を担っている間、チームキャプテンにもゲームキャプテンにもなれない。

規則 19.3.2 選手のリプレースメント (入れ替え)

- 19.3.2.1 リベロと他の選手のリプレースメントは、通常の選手交代には数えない。
その回数に制限はない。しかし(ラリーが完了せずに、ペナルティにより、ポジション4にローテーションしなければならなくなったり、アクティंगリベロがプレーできなくなったりした場合を除き)リベロのリプレースメントを2回行う場合は、新たなラリーが完了した後でなければ2回目のリプレースメントはできない。
- 19.3.2.2 アクティंगリベロが入れ替わることができるのは、もともと入れ替わっていた選手またはセカンドリベロのみである。
監督はラリーが完了したときは、理由を問われることなく、試合中いつでも、アクティंगリベロとセカンドリベロを入れ替えることができる。
- 19.3.2.3 リプレースメントは、ボールがアウトオブプレーの状態、サービスのホイッスル前でのみ行うことができる。
- 19.3.2.4 各セットの開始時には、リベロは副審によるスターティングラインアップの確認が終わるまで、コートに入ることができない。
- 19.3.2.5 サービスのホイッスルの後であっても、サービスがまだ打たれていなければ、リプレースメントは拒否されない。しかし、これは許可された手続きではなく、さらに再発の場合は遅延行為の罰則を科すことを、そのラリー終了後、ゲームキャプテンに伝える。
- 19.3.2.6 リプレースメントの遅れが再発した場合は、プレーを直ちに止め、遅延行為に対する罰則を科す。次にサービスを打つチームをどちらにするかは、遅延の罰則の内容により決定する。
- 19.3.2.7 リベロとその入れ替わる選手は、リベロリプレースメントゾーンを通じてのみコートに出入りできる。
- 19.3.2.8 リベロと他の選手のリプレースメントはリベロコントロールシートに(もしも電子記録用紙

が使用されているなら、その電子記録用紙に) 記載する。

19.3.2.9 不法なリベロのリプレースメントは(主に)以下の事例を含む。

- ・ リベロリプレースメントの間に完了したラリーがない場合。
- ・ リベロと通常入れ替わる選手ではない選手と入れ替わる場合。

不法なリベロのリプレースメントは、ローテーションの反則と同様に扱う。

(注)

- ①ラリーが、ノーカウントになったときは、リベロのリプレースメントはできない。
- ②サービス許可のホイッスル前であれば、何度入れ替わっていても良い。(例えば、最初L1が入ったがL2の方が調子良かったので、L2に替わったなど)
- ③サービス許可のホイッスル後、サービスが打たれる前にリプレースメントした場合は、ラリー終了後、ゲームキャプテンに注意が与えられる。繰り返した場合は、プレーを直ちに止めて遅延の罰則が科せられる。この時のリベロの交代は認められない。ただし、ペナルティにより、リベロがポジション4にローテーションしなければならなくなったり、アクティングリベロがプレーをできなくなった場合は、ラリーが完了していなくてもリプレースメントが許される。

規則 19.4 新しいリベロの再指名 (RE-DESIGNATION OF A NEW LIBERO)

19.4.1 リベロ2人を持つチーム

19.4.1.1 リベロを2人持ち、そのうちの1人がプレーできなくなった(退場、病気、負傷等)チームは、リベロ1人で試合をすることができる。セカンドリベロはアクティングリベロとなる。再指名は認められないが、2人ともプレーの続行ができないと宣言された場合は、この限りではない。

19.4.2 リベロ1人のチーム

19.4.2.1 リベロが1人しか記録用紙に登録されていない場合で、そのリベロがプレーできなくなったと宣言されたときには、監督はその時点でコート上にいない他の選手(リベロと入れ替わった選手を除く)を、試合終了までリベロとして再指名することができる。監督(監督不在の場合はゲームキャプテン)は再指名の要求を副審に伝えなければならない。

19.4.2.2 もしも再指名されたリベロがプレーできなくなった場合には、さらにリベロを再指名することができる。しかし、この場合は、元のリベロは試合に戻ることはできない。

(注)

①リベロ2人のチームがリベロの再指名を行う場合：

そのチームは、1人のリベロが、負傷や病気によりプレー続行できなくなったと判断したとき、監督（監督が不在のときはゲームキャプテン）が、中断中に副審に、1人のリベロがプレーを続行できなくなったことを申告する必要がある。この申告は、再指名の要求と同時に行うこともできる。

副審は、その申告を記録員に記録用紙の特記事項欄に下記のように記載させる。この時点で、このチームは、リベロ1人のチームとなる。申告した後、そのリベロが回復しても試合に出場することはできない。

(記載例)

Aチーム、No. 14のリベロが負傷して、第1セット13：14のとき競技続行できないと判断し、監督が申告してきた。

リベロの負傷/A/1 (13：14) No. 14

②リベロが1人になり、そのリベロが、負傷や病気になった場合やプレーの調子が悪い場合は、再指名をすることができる。再指名の方法は「リベロ1人のチーム」と同様に行う。リベロとして再指名された選手は、試合を通じてリベロとして試合に出場し、元のアクティングリベロと同じユニフォームを着るか（番号は自身と同じものを付ける）、ジャケットまたはビブスを着用する。ジャケットまたはビブスは、各チームで準備をする。

③再指名する場合、リベロがコート上にいるときでもできる。

④プレーが続行できない（プレーの調子が悪い）と宣言されたリベロは、再指名をした時点で、試合に戻ることはできない。

⑤リベロが退場や失格になった場合は、その制裁が続いている間、再指名することができない。

19.4.2.3 監督がチームキャプテンをリベロとして再登録することを求めた場合は、この要求は認められるが、チームキャプテンはリーダーとしてのすべての権利を放棄することになる。

(注)

① チームキャプテンがリベロとして再登録された場合は、以後は新たにチームキャプテンを指名する必要はない。試合中はゲームキャプテンがキャプテンの責務を担う。

②試合終了後、リベロに再登録されたチームキャプテンが、記録用紙にサインをする。

19.4.2.4 もしもリベロの再指名があったときは、再指名された選手の番号を記録用紙の備考欄とリベロコントロールシート（または電子記録用紙が使用されている場合は、その電子記録用紙）に記載しなければならない。再指名された選手は、新しいリベロがプレー中であることを示すジャケットまたはビブスを着用する。

(注)

1. リベロの再指名の方法は、次のとおりである。

①監督がブザーを押し、副審に、口頭で「リベロの再指名」を要求する（ハンドシグナルは示さない）。その時、リベロと再指名される選手は、リベロリプレイメントゾーンに、ナンバーパドルを使用する場合は、ナンバーパドルを持って準備をして立っていないなければならない。（再指名された選手はビブスを着るか、アクティグリベロと同じユニフォームを着る。しかし番号は自身と同じものを付ける）

◆リベロが、コート上にいるときでも、再指名することができる。

◆交代が遅れたり、準備ができていない場合は、拒否され遅延の罰則が適用される。

②副審はホイッスルし、記録員にリベロの再指名の要求であることを口頭で伝える。この際ハンドシグナルは示さない。

③記録員は、再指名した選手が、リベロと交代した選手でないことをアシスタントスコアラーに確認し、片方の手を上げる。

④副審は、リベロの再指名を許可する。

⑤記録員は記録用紙の特記事項欄に、アシスタントスコアラーはリベロコントロールシートのコラムに、それぞれリベロの変更を記載する。

(記載例)

Aチームが第1セット13：14のときリベロの再指名の要求があった場合

(リベロNo. 14、再指名の選手No. 9)

<記録用紙> リベロの再指名/A/1(13：14)No. 14→No. 9

<リベロコントロールシート>リベロの再指名の記載欄に記載する。

⑥記録員は、アシスタントスコアラーの記載が完了していることを確認したら、両手を上げて副審に知らせる。副審は、主審に両手を上げて知らせる。

2. セット間にリベロの再指名をしたいとき、監督はリベロを再指名することを副審に伝える。副審は、スターティングメンバーの確認をした後、リベロの再指名の手続きを行う。

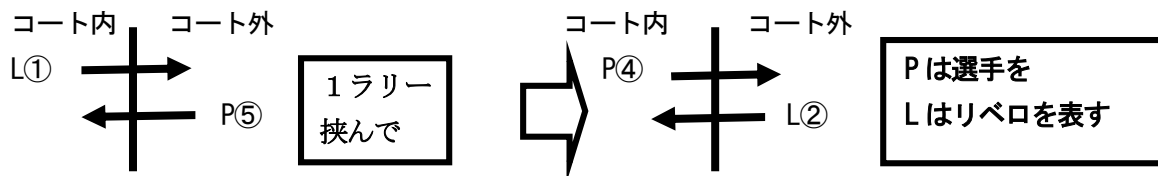
規則 19.5 退場と失格 (EXPULSION AND DISQUALIFICATION)

もしもリベロが退場や失格となった場合は、チームのもう1人のリベロとすぐに入れ替わることができる。チームに1人しかリベロがない場合は、その罰則が続いている間、リベロなしで試合をしなければならない。

リベロシステムの取り扱い

現状の高体連特別ルールによるリベロシステムをシニアルールに移行する。

★ リベロの交替は必ず1ラリーを挟まなければならない。



従来の高校ルールではこの交替は同時に行われていたが、シニアの場合は必ず1ラリーを挟まなければならない。

平成24年度、高体連のみ取り扱い

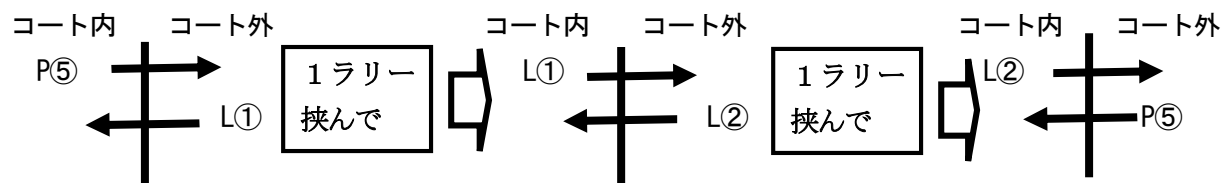
チームが間違っリベロリプレースメントを行い、審判員が指摘した場合は試合を通して各チーム1回目に限り、その間違いを教え反則とはせず、正しいリプレースメントを認めた上で試合を再開する。

2回目以降は不法なりベロの交代として取り扱う。(規則 19.3.2.9, 規則 7.5, 規則 7.7)

審判員の指摘が

- ① サービス許可の吹笛前であれば、間違いを修正した後、正しいリプレースメントだけを認めゲームを開始する。
- ② サービス許可の吹笛後からラリー完了前までであれば、直ちにゲームを止めノーカウントとする。さらに間違いを修正した後、正しいリプレースメントだけを認めゲームを再開する。(ノーカウントではあるが前項①との関連から特例として正しいリプレースメントだけを認める)
- ③ ラリー完了後であれば、たとえ1回目の場合であっても不法なりベロの交代として取り扱う。(規則 19.3.2.9, 規則 7.5, 規則 7.7) またラリーの完了があるのでリプレースメントを認めて再開する。(この場合は「1回目の教えたこと」として扱う。)

★ リベロ同士の交替が可能。



従来の高校ルールには存在しない。

リベロ同士のリプレースメントは、1ラリーを挟んでいれば何度でも可能。

- ★ リベロ再指名は、必ずしも怪我・病気でなくても良い。
但し、リベロが1名の時に限る。(2名リベロであっても、その内の1名が怪我・病気でリベロ機能を果たしていない場合はリベロ1名と考える)
再指名をした後、元のリベロはその試合に再びコートに戻ることはできない。

2 正規の試合中断に関する事項

規則 1 5 正規の試合中断 (REGULAR GAME INTERRUPTIONS)

正規の試合中断は、タイムアウトと選手交代である。

中断とは、ラリーの完了から、主審による次のサービスのホイッスルまでをいう

規則 1 5. 2 正規の試合中断の要求 (REQUEST FOR REGULAR GAME INTERRUPTIONS)

15. 2. 1 正規の試合中断は、監督により要求される。監督が不在の場合は、ゲームキャプテンだけが要求できる。

この要求は、ボールがアウトオブプレーの状態、サービスのホイッスルの前に、決められたハンドシグナルで行う。

(注)

- ①完了したラリーとは、一連のプレーの動作の結果で1点を与えられたときをいう。
- ②正規の試合中断の要求は、ラリーの完了から主審による次のサービスのホイッスルまでの間に要求することができる(規則 1 5)のでノーカウントになった場合や試合を中断して遅延に対する罰則を適用(規則 19. 3. 2(3))した場合には、新たな中断の要求は認めない。
- ③同一中断中に遅延の罰則を適用されたときは、そのチームの中断の要求は認められない。

3 副審の責務に関する事項

規則 2 4. 3 責務 (RESPONSIBILITIES)

24. 3. 1 それぞれのセット開始時や最終セットのコートチェンジ時に、必要に応じてコート上の選手の位置がラインアップシートどおりであるかをチェックする。
24. 3. 2 副審は、試合中、次のことを判定し、ホイッスルして合図する。
- 24. 3. 2. 1 相手コート、およびネット下方の空間への侵入。(規則 11. 2)
 - 24. 3. 2. 2 レシービングチームのポジションに関する反則。(規則 7. 5)
 - 24. 3. 2. 3 選手が、ネット下方の部分に触れ反則になる場合、または副審側のアンテナに触れたとき。(規則 11. 3. 1)
 - 24. 3. 2. 4 バックプレーヤーがブロックの完了をしたとき、またはリベロがブロックの試みをしたとき。バックプレーヤー、またはリベロがアタックヒットの反則をおかしたとき。(規則 13. 3. 3, 14. 6. 2, 14. 6. 6)

- 24.3.2.5 ボールが外部の物体に触れたとき。(規則 8.4.2, 8.4.3)
- 24.3.2.6 ボールがフロアに触れて、主審がその接触を確認できないとき。(規則 8.3)
- 24.3.2.7 相手コートへ向かうボールの全体またはその一部が副審側の許容空間外側を通過したとき、あるいは副審側のアンテナにボールが触れたとき。(規則 8.4.3, 8.4.4)

(注)

- ①ルール改正により、バックプレイヤーの判定を確実にできるような見方、位置取りをする。
- ②副審は、ネット上部の白帯の部分でも、ブロッカーが触れた場合は、タッチネットの反則のホイッスルをする。

4 ネットへの接触およびネット近くの選手の反則に関する事項

規則 1 1.3 ネットへの接触 (CONTACT WITH THE NET)

- 11.3.1 選手によるネットへの接触は、プレーの妨害にならない限り、反則ではない。
- 11.3.2 相手のプレーの妨害にならない限り、選手は支柱、ロープ、またはアンテナの外側にあるネットや他の物体に触れてもよい。
- 11.3.3 ボールがネットにかかり、その反動で相手がネットに触れても、反則とはならない。

規則 1 1.4 ネット近くの選手の反則 (PLAYER'S FAULTS AT THE NET)

- 11.4.1 相手のアタックヒットの前、またはその最中に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。(規則 11.1.1)
- 11.4.2 選手がネットの下から相手空間に侵入し、相手のプレーを妨害したとき。(規則 11.2.1)
- 11.4.3 選手の片足(両足)が相手コートに完全に侵入したとき。(規則 11.2.2.2)
- 11.4.4 相手のプレーに対する(主な)妨害(規則 11.3.1):
 - ① ボールをプレーする動作中に、ネット上端の白帯、またはアンテナの上部 80 cm のどこかに触れること。
 - ② ボールをプレーしながら同時にネットから支持を得ること。
 - ③ 相手に対するアドバンテージをつくり出すこと。
 - ④ 相手による正当なボールへのプレーの試みに対し、それを妨害する動作をすること。

(注)

プレーの後、相手コートへの侵入など反則が起きることを防ぐためにネット(ネット全長)にぶらさがったり、ネットの助けを借りていると判断した場合は、タッチネットの反則となる。また、相手のプレーに影響を与えていると判断したとき(アンダーロープに捕まった場合も含む)、タッチネットの反則となる。

5 選手交代に関する事項

規則 15.10 選手交代の手続き (SUBSTITUTION PROCEDURE)

- 15.10.1 選手交代は、選手交代ゾーン内で行わなければならない。(規則 1.4.3)
- 15.10.2 選手交代は、記録用紙に記入し、選手のコートの出入りを許可するために必要な時間より長くかかってはならない。
- 15.10.3a 選手交代の要求とは、正規の中断の間、プレーする準備の整った交代選手は選手交代ゾーンに入ることをいう。(規則 1.4.3)
- 15.10.3b もしも前項のようでなければ、選手交代は認められず、チームは遅延行為により罰せられる。(規則 16.2)
- 15.10.3c 選手交代の要求は、記録員がブザーにより、または副審がホイッスルにより通告する。FIVB 世界・公式大会では、選手交代を容易にするため、ナンバーパドルを使用する。
- 15.10.4 1 チームが2組以上の選手交代を同時にしようとするときは、同一要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに向かなければならない。この場合は、交代は1組ずつ連続して行われなければならない。

(注)

- ①交代選手が準備ができていない場合は、その要求は拒否され遅延の罰則が適用される。
- ②複数の選手交代を要求したとき、1組の交代選手が遅れた場合、その交代は拒否される。
- ③複数の選手交代を要求したとき、組合せの中で不法な選手交代である場合と選手が準備ができていない場合は、その交代は拒否され遅延の罰則が適用される。ただし、正しい交代や遅れていない交代は認められる。
- ④複数の選手交代については、1組目が完了するまでは2組目はサイドライン上には立たせない。
- ⑤交代選手がサービスのホイッスル後にサブスティテューションゾーンに入った場合は、拒否をして不当な要求とする。
交代選手が、サービスのホイッスル後にサブスティテューションゾーンに入り、このとき副審がホイッスルしたり、記録員がブザーを鳴らした場合は、遅延の罰則が適用される。
- ⑥複数の選手交代のとき、パドルをベンチに取りにもどり再度選手交代を要求してきた場合は拒否され、遅延の罰則が適用される。

*ナンバーパドルおよびブザーを使用しないときの競技者交代の手順

- ①交代選手が、サブスティテューションゾーンに入ったら、副審がホイッスルし、ハンドシグナルを示す。主審もハンドシグナルを示す。
- ②副審は、ポールそばで選手交代をコントロールする。
- ③副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止まらせる。
- ④副審は、コート内の交代する選手に手を挙げさせる。
- ⑤記録員は、交代できることを確認できれば、軽く手を挙げて合図を送る。交代できない場合は記録員が手を横に振る。
- ⑥副審は、記録員を確認し、手で合図をして選手を交代させる。
- ⑦記録員は記録用紙を記入して、完了したら両手を挙げる。
- ⑧複数の選手交代の場合は、1組ずつ③から⑦の手順を同様に行う。
- ⑨副審は、記録員を確認し、完了を主審に知らせる。